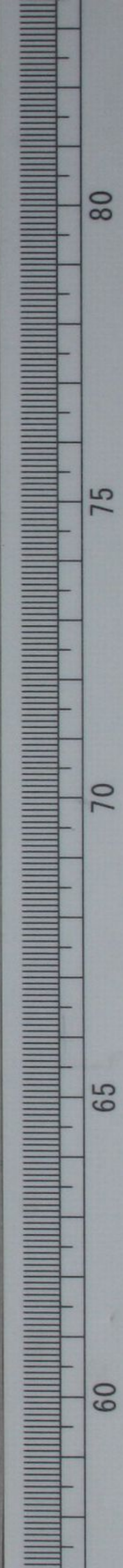


江戸今八百韻 全

中村俊定文庫

文庫 18

219



のしるしをいふにその旨をいふは
さかひなきをいふにその旨をいふは
かへりていふにその旨をいふは
特微をいふにその旨をいふは
今感念をいふにその旨をいふは
あつたをいふにその旨をいふは
海をいふにその旨をいふは
のしるしをいふにその旨をいふは

物よりいふにその旨をいふは
しるしのしるしをいふにその旨をいふは
さかひなきをいふにその旨をいふは
かへりていふにその旨をいふは
特微をいふにその旨をいふは
今感念をいふにその旨をいふは
あつたをいふにその旨をいふは
海をいふにその旨をいふは
のしるしをいふにその旨をいふは

しるしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに
のりしに酒の味はさかたに

肺病の一類の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん
梅田の症にあらん

百菴
青瑠



何龍



我花屏すくむ海は清大名

青岬

旅子と逃ひし山松の下 百菴

鯨の魚さきしのもろもがうりあり 超波

兵部が駈辨り棟く 青鹽

筆葉のこまき中より雲ふは 菴

流氷次舟れ舟乃何うさ 哉

葦木のやゝゆるい月とて後
控れし志やんと居るは福草
ふくしの身お逢ふに國越
荷くくむれくと頭文乃る
顔くら押降ふ字とよるに
静小奥乃膳さうは也
竹け芝のいねおこる雨の中
目のまふやふ寺乃十景
岷 菴 珥 波 岷 波 珥

寒さ小粥くらまりかふと新
母乃おはしと松明と揺る
短衣の揺りつし河けをぬ
乞食乃数片暇と吹とゆ
着い者の七歌音少指と折
余に乃まれろくひをゆ
梅の夕月底ニ坪板くらぬ
ま乃目このふゆんうは也
岷 菴 珥 波 岷 波 珥

高水落の條きとひび多かり
志あふくしとく境波の待
持きく漕くも若菜の花き人
まむ花守やや菊やひるふや
秋の風百練り刀の鏡波才
淀をこすえと山崎の月
あふくも昔落の香短早うりり
サ〜〜〜女布いん〜〜〜
峨 菴 尹 波 菴 峨

汗水の印んおろ〜〜〜
赤肺と印んおろお中の夏
啼〜〜〜千の浪〜〜〜
裸〜〜〜月子と子ら〜〜〜
草花摘男〜〜〜少婆あ〜〜〜
右左ゆ〜〜〜と〜〜〜のお
嶽孤居のいふ久〜〜〜
倉傷とち浪と十〜〜〜次
峨 菴 尹 波 菴 峨

中水乃出家小清い〜後〜
岸才船の〜られ由〜
山菜花ふま乃紙子〜
小まの紙と〜
翔乃石の澄〜
活園のみ〜
不縁〜
持不〜

岷 菴 尹 波 菴 岷 波 岷 波 岷

浦風乃家ゆ〜
〜夜〜
院人の幕〜
〜れ〜
是〜
お乃軍の算〜
将〜
塚の〜

岷 菴 尹 波 菴 岷 波 岷 波 岷

お世に割れうね物なり波の
 大分綿衣入道は寛潤
 音のめつけ亭のいふて同く人
 酒熱も塩のふりかた味
 いつしは名の口道に昆須偈摩
 伊賀一日もたいく河を道
 白ののれちうさくまの月
 ちん漣くすまの段人

波 峩 菴 波 菴 峩 波 峩

名千河の段ふりぬんりぬ西瓜
 法祥のちくく二波の河
 海く牛と童の波の川
 山く後と枯れくさる河
 け林の巴の金具くわく河
 眼目くはくさるくす名の手
 あゆく押つる前いさめ河
 むくの橋く叫く河

波 峩 菴 波 峩 菴 波 峩

牛廻り糸糸の〜水の牛
取持家ハ長袴〜河
新川ふた〜ま〜秋の月
一羽〜〜知る〜
昔の秋を〜〜波のひび
〜〜〜小〜花成就
毛柄〜〜〜〜
谷中〜〜〜
峨 菴 尹 波 峨

同〜〜〜山形〜
吐血乃常一〜
却〜〜〜
白水〜〜門番〜
三田川〜〜
お發〜〜
仏の目泪乃情〜
水は〜〜
峨 菴 尹 波 峨

糸雲〜は〜むねのまのふらふ
風よ〜むねや中津の幕
大腰小投あふれ〜舟鞍の舟
ま〜舟の舟と〜舟の神
地はよ腰〜舟げ〜舟の舟
ゆ〜舟の石ぬぬの舟
目の下小和泉河舟の舟
葉〜舟の武者舟の舟
岨 菴 尹 波 菴 岨 波 尹

び〜若く石の地舟の舟
緋ち〜舟の玉川の舟
舟の舟〜舟の舟
〜舟の舟の舟
蒲公舟の舟の舟
照の八舟の舟の舟
岨 波 岨 波 岨 波 岨 波

ひさしの居るよき山風の
弓矢乃中しつる玉虫
此亦よき軍小舟けり
よき色めはゆふ秋の申れ
きよき浦舟早れ月乃雲
十日よき新結ハ末
花軍よき白き末と一まに
はよきしよきよきよき
波 菴 珥 峨 菴 波 峨 珥

舟常小野るや唐侯也あつん
はよきよき奴迄今中川鱗
男色いよき柄河美也
吸つけよき香具金乃様
よきよきよきよき夕涼
茶の海舟よき乃よき上加茂
禪坊よきよきよきよき
天門冬ハ沙羅かりり
波 菴 珥 峨 菴 波 峨 珥

翔空く白乃霧霞陸あし
二尺階月々旅人て本い
行渡やうそ乃相申れあひし海
水し風拂月下乃月う
稻葉のりゆけし言雪れ色
檀うみさる眠茶乃定
塗着の一寸さり福うれり
福ふま層と何老のま印
波菴 珥 岷 菴 波

柿色し福師乃母ハさひ如り
石川崎と浪乃夕照
さし如ける豊は是く二成起
乃の食と幸く其乃木く
さ啼乃無恒と乃浪あお
かゝ糸の玉乃こゆれ石女
間乃物骨く色とあのみや
併餉米汁はあさ嬉さ
波菴 珥 岷 菴 波

朝の月蛙乃多も淡水に
 行く——杉葉を落ゆし高へ
 むの山をわ——と茶をふるる嬉し
 笑侍乃唇——墨
 切落すも思ふぬ水は海
 志ん粉めりてく——
 何——の走——の日照年
 曾家沖村を——れと語る人
 波 菴 理 峨 菴 波 峨 尹

砂川や僧乃脚中か身は是て
 芦万の壁に衣れ掃雨
 塀廻り小雲よ春中へかきか裾
 小くくも再くか海嶺切
 古京の侍——の河子にがらり
 積る奈川——今朝の乃波
 世中や愚癡しそれと袖の月
 女——の舟——の——
 波 菴 尹 峨 菴 波 峨 尹

舟宿の酒のりさるるを遺恨多
くはしめんからせむこの友
舟宿の酒名の上へ著しけ
り固れ杖もくわうくけ
葛ふも二口すと程ふと
錯雑の長者眉毛長うれ
線香の封も切ぬおれき早ま
結くさるは鼓の速さあり
波菴 珥 峨 菴 波 峨 珥

昔は傷とのまけく山乃西白
浪りし錯るは相模殿様
家師走人乃部を小進れり
焼餅を印と細い火ハ好し
さくくは茶葉行乃月ハ掛く
黄檗宗の履くおふむ
碓や通にまゝいぬおの千大根
初乃初うひ々穴茶そく
波 菴 珥 峨 菴 波 峨 珥

百葉の歌乃昭の河はけり 伊

歳の額一居る定段 峨

一と流ふ水より拍子にのち波 波

寺水乃う河の春りてん 菴

花盛徳のかみ形にみ大隈 峨

潤乃う河みれ光る葉を衣 耶

三字中畧

伊と流女御乃部わらわり 青鹽

いづれははれぬ小舟か舟 青峨

うみくくまはる契斗はしを 百菴

一歩少別を同知う前く 超波

こゝ現く瓶ふさくははの音 峨

い川乃城の橋水一松 耶

岸柿のそよよとそよよと
 電の火もとととととと
 借しとととととととと
 古に裡り 戲書
 高き山このとととととと
 すし甲斐阿り〜精伝の角
 居風鳥の下焚くや川に海月と
 世々伯父のり〜〜〜らりがし

波 菴 峨 波 菴 峨 伊

ち〜と梳ぬわ〜 左服
 落〜〜〜〜〜海茵取
 浪第乃胡粉とぬ〜〜〜秋のち海
 静を床小明ける〜〜〜け森
 所らひふ早〜〜〜月の中
 〜〜海の苔を磨り〜〜〜り
 〜〜〜の白〜〜〜葉れ下
 二人ひくふの浮り流〜〜よ

波 菴 峨 波 菴 峨 伊

めいひ島ふ吉傳大は乃波とよみ
とくくくくくくくくくくくく
増信赤穂とてきく候くくく
あれと千を乃波ぬけの字
痛と苦ふすくくくくくくく
早きくくくくくくくくくく
往果の足はもくくくくく
富体始乃くくくくくく

波 菴 岷 波 岷 伊

くくく神の看夜くくくくく
湯し肌あくくくくくく
お福也丸曜のくくくくく
さめくくくくくくくくく
張子愛くくくくくくく
荷くくくくくくくくく
作くくくくくくくくく
帯くくくくくくくくく

波 菴 岷 波 岷 伊

小物風天津川の舟は流あはらり
 くやふ不神り誓合はくは
 く水のさるの盟れさつふく
 関八州り代官の秋
 漕るに時もゆりしふ量火丸
 持根りすゆをさるり之波
 室君り枕くくかけ流り
 灰くくくの占すくひくく

波 菴 峨 岬 波 岬 岬 岬 岬

けのんくは所の月早もゆ
 流り山影も波なめくく
 菴地り生草もゆく流半
 寝るく起りもゆく流半
 即くふ旭ハ流流引延り
 殿中りくくき絶大紋
 朝鮮の文流流もゆれり
 持構もくくす機塔くむ

波 菴 岬 岬 岬 岬 岬 岬 岬

波 峩 菴 波 峩 菴 波 峩 菴 波
 何れもくもくたるる苦の味
 杉くも黄腸のたれ一重
 す縁つるも今に世もなれば只也
 之能や法何の悔思多に月
 どの葉もあすは海にまのち
 灯して流るる花大ら〜
 ひの波の障子の由あすも
 何れもくもくたるるの波

波 菴 峩 波 峩 菴 波 峩 菴 波
 何れもくもくたるる苦の味
 杉くも黄腸のたれ一重
 す縁つるも今に世もなれば只也
 之能や法何の悔思多に月
 どの葉もあすは海にまのち
 灯して流るる花大ら〜
 ひの波の障子の由あすも
 何れもくもくたるるの波

光のひのさのりねぬ〜け
いふこ〜時の幕〜古
ちや〜の狸のさ〜あふぬれ汁
甲〜の川の水際
卯月の下〜る〜後〜綿
ふ〜かりんば〜萩の〜風
よの〜あふれ雨戸あ〜い毎の秋
肩〜あふ〜ある中陰のゆけ

波 菴 岷 波 菴 岷 波 菴 岷 波 菴 岷 波

又長〜が〜の〜海印
福〜〜の〜福井ゆね
身ゆ撲ふ〜あ〜路の浪り〜
堤り柳〜〜ありねあ〜あり
割れのみ〜あ〜る〜あ〜る
仰高門と〜〜〜二月

波 菴 岷 波 菴 岷 波 菴 岷 波

何盥

百菴

紫陽花や水戸なげこむるの口
 ひたすらしつゝ海瓜の下陰 青岫
 伊達原ふ石れ堤も所披くせく 青鹽
 都遷しりのりや人づ 超波
 折衷の蟠福とこい千代等 岫
 海老しし宿恋く新月の色 菴

しん秋ふまゆしに澄み越波
 せのまの早のりもりしと私 岫
 こつふま清けく松もあつり 菴
 りはれあふし一感念寺す 岫
 せり出る縁りの給りよの時ふ 岫
 回しつゝまの部の具合 波
 野宮のいしつゝながし鈴乃音 岫
 まふしつゝいしつゝあ 菴

指船し海世の公海しこのひぬ
葉乃毛し頃花し月
音のひらめく声の潮し水
踊かつりりし流し
姫舞の紙れあしふ無り歌
印しり纏付のひりしり波
おの塔上神流るま且しやえん
大葉ししおのりまの節
菴 岷 波 尹 岷 菴 波 尹 波

右之居る左とかゆに麻乃角
榛名乃乃くされはかしり
白癩老々ま情も弱しん
鶯焼くかりり墓や乃家
とくおのりしれしあまを
早しあしり人の影
さしりしははのあしり
あしりの役しあな契し
菴 岷 波 尹 岷 菴 波 尹 岷 菴

色くりの茶所海中一の唐人草
是くはうやびくく産に
吉のりまきまきや十にお
抄子く芋は世にけとつめ
明衣千次坊のくはりがく瓜
おきくくく谷川の水
かろくわりのくはりなる中の客
木の葉くくくく治連纏
菴 峨 波 尹 峨 菴 尹 波

風と見くくくの魚はははは
くや新波りぬれ色くく
まひのくはり沖くのぬれ朝所
木の葉くくくく通るおや
柑灯花がくくくく又ゆり
紫顔目の葉くくくく
夕くくく月香の下油井く溪
きくくくくく家の麦飯
菴 峨 波 尹 峨 菴 尹 波

座中し 稻保はくみはあやせ
 例のししし 玉章は吐く
 花は希ふはくみはあやせ
 多色ししし 十の日は
 大坂の波も消ししし
 妾とくししし 蓋海とくしし
 古郷子の鹿若号も神くし
 結ししし 結ししし 結ししし

波 岬 尹 波 岬 菴 波 岬 菴 波 岬 菴

さく鳥尾ふは浦はしし合
 歌し味もくし 飯乃別居
 一也し 少極もたれす日の光
 物んく 迹は戸原の宮
 指乃極もくみはあやせ
 屋敷のししし 舟はけは新造
 行衣ふはけのししし 見は極の結
 少松乃葉ふはあやせ

菴 岬 波 尹 岬 菴 波 岬 菴

昔やんとくふ舞うた二日の月
赤とんぼく乃はがひ吹ち侍
親殿の泊庵はく人寺乃秋
拂ひ田代はく英皂の北
回春乃あふふあふ昔丁一
お用の河けとく人く侍を
投げ入れくあふれく江蔓のむ
賣れくくく見ぬ答のな乃答
菴 峨 波 珥 峨 菴 珥 波

是く赤くあけくくはれくは塚日
物ねくは女中くくくくく
点の部乃不流めけく一寐入
恭くくく居上乃月
お大師の古くあふれくは
さのあけく一回く野の河りね
くくくく春乃の河地はくあふく
おのくくくくくくくくく
菴 峨 波 珥 峨 菴 珥 波

新嘉すゝ人新集くわさの友
古繩のこゝる冬乃梨の柑
舟夫の洲候ふはは場くくり
おふか〜糸の奥れ〜の〜橋
膝迄の〜帽子の針の〜か滅
いけ〜こ〜ち〜の〜れ〜橋〜ゆ〜ふ
消渴乃美〜と〜舟おと〜は〜え
袴襦印〜く〜菰の〜ん〜あ〜く
波 尹 峨 波 尹 峨 菴

なげ〜し〜月お乃還〜り
蘭〜ニ〜き〜り〜筆の〜う〜わ〜と〜
啼ねお宥の篝や秋乃藤
け〜〜は〜し〜り〜お宗眠
おぬぬ〜羊羹乃布門とけ〜
四月乃〜と〜と〜し〜ら〜と〜の〜空
風呂爰もおはの藍とがら
綿〜け〜〜ゆ〜る〜縻乃〜昔〜給
波 尹 峨 菴 波 尹 峨 菴

高江の船より家神の初しとて
 波
 ありき酒の令具かゆ
 珪
 世りりりり百日の難きよの
 菴
 酒れさるふふとちち花
 波
 去風の午まのる年あふ
 珪
 三たれぬ虫の飛とむ
 峨

車何

法僧の夢に如月の前
 超波
 時々何水也寂寞の水
 青鹽
 踏吉敷れたるの山と存稀ふ
 青峨
 友々々々々々々々々々々々
 百菴
 二下捲けし少々々々々々
 珪
 満彩音をいふふこは存
 波

川よる白く嵐波吹ちのし
らほつよふしう大つあふあ
かり方なほ海はよのめ丸
酒りめのよは海はけ人く
何船もまじりてはしとく
稲葉ふけくく白髪り神
印也くと川波さく朝の月
別身十荷ふあはけり多
波 尹 菴 峨 尹 波 峨 菴

風よのそらくくもふらうり
洲渡りもそれ空かくあふ
唯ねはなふふ並本と見ふ
芝居居こく二株の川
仇破り二日續くくあふ
若の都く言ひ赤貝
宮地く庭の下のはのほ
いふあふあふいふあふ
波 尹 菴 峨 尹 波 峨 菴

米壽を回し石浜流時
家野河のく河昔の水
口よりさきく是なる岸
坂はさし〜山先あり
うんがう〜まふ指の條
のいの寺の鼎負す海也
杉板ふたより羽織神
う〜の道〜と返と踏む

菴 岷 波 尹 菴 岷 波 尹 菴

陸陽師細ら燈小所と
ゆを〜〜〜といる瘡痕糸物
と〜〜〜山はか〜山
以膳り先〜山者り菴
かん〜空踏り捧心海の月
鈴木存〜し若白り秋
さ〜おや巻の本綿は〜の上
雨〜〜川〜十日め〜

菴 岷 波 尹 菴 岷 波 尹 菴

りおきりた大ゆしりか
かえり蒲あね
いしりの鼻あけり
慶長元年 鵜口月銘
あがりふりたけ
積とおく
川茶何く
すすりれり
波 珥 菴 岷 珥 波 岷 菴

三十一
廿六

かえりた大ゆしりか
月やあ
今の力小
あし
九者
背しり
一ふり
波 珥 菴 岷 珥 波 岷 菴

沈滞の鹽漬く 露見捨
 黒い如し 赤い瑣拵
 大佛の向地 赤い流る川風
 榛の木 身は斤所 乃月
 首は赤米 流る此の川
 例一も 見て 遠く元船
 女の蒲 赤い 流る川
 髪 赤い 乃月 赤い 流る川
 波 尹 菴 峨 珥 波 菴

血の如く 針は山 流る川
 湯殿の 赤い 流る川
 即ち 流る川 赤い 流る川
 長柄の 赤い 流る川
 掬はぬ 赤い 流る川
 大なり 神 赤い 流る川
 解い 赤い 流る川
 波 尹 菴 峨 珥 波 菴

母親の湯いり〜おれ子に待つ〜 菴
 庭一と〜と〜暮りうらやまの
 塔の朝楓の鼻とほれたあをを
 牛〜〜〜た麦藁の鞆
 夕涼の月〜か〜ぬ場所
 さあ〜〜〜葉の小〜な
 蔓物〜ら〜ら〜〜感
 日〜く〜〜の里
 波 菴 岷 尹 波 岷 菴

うい包胃り腹〜わ〜る
 い〜〜〜〜〜の聲
 音響〜ら〜〜沖〜り
 葉先花〜一斤り丈け
 清々梅子の山吹花の都也
 水着〜〜湖の川
 岷 菴 岷 尹 菴

何里

親とてありて子も有るを小坂石

青峨

情も深し結りて月

青壘

露の戸も文苑芙蓉綴りて

超波

酔い酔い酔い酔い酔い酔い

百菴

うきうき今れ雨飾りて

理

あつあつ下様さかい

峨

生け山葵ちいさな葉もも出ぬ

菴

朝日月の海のうららかな

波

切通し空をゆく清らかな

峨

さす野聖月貴物に思ふ

理

鬘入連のまことまこと

波

赤井守にたがふ魚は中

菴

多い果も守りて解く日か

理

山土用干りてしるか

峨

青壘

上三京の山嶺りさる此水の音
 財布の匠いしりくかきふ仇し身
 人魂の印の跡のわらわさかたれ
 あはれを懐り花のりこころん
 裸しこころをわづかしくこころり
 さいきふを葉の枝が
 醜の烟の神しきもの
 斬こころれく明り相る
 嶺 伊 菴 波 伊 峨 波 菴

ちよとちよと早結のさけの葉を
 柳しかりくさるる山をりあ
 のこころんこころり居りまき者
 土とちよと水ぬ南天の枝
 衣木や竹田の舟はるる
 月かかきこころり神をわらわさ
 月白くはるるこころり結ひ
 ちよとちよとちよとちよとちよと
 嶺 伊 菴 波 伊 峨 波 菴

くらげ細く波下あかしく浪あらし
 帆波川すけれた明りまぬ
 毛皮入るり花いそぎ
 けしき
 十日の霜はまぬく別れ
 播磨の海に中川月多
 風つらき
 津をりあひの船はし
 波 尹 岷

くらげ細く波下あかしく浪あらし
 帆波川すけれた明りまぬ
 毛皮入るり花いそぎ
 けしき
 十日の霜はまぬく別れ
 播磨の海に中川月多
 風つらき
 津をりあひの船はし
 波 尹 岷

青園一ざのぬ鳥の玉前傳
何所縁かあゝ阿蘇く月秋
菊小蝶と海り人の流
羊煮くくも安月町
かす流のくくはくくくく
寺是地り望まぬ杖
名はすけくか望れ酒空の娘也
か〜と〜く〜く〜ははははの香

菴 尹 峨 波 尹 菴 波

清水弾りく〜菊は流るるく
千秋素と階子〜竹け
川原楊けの葎もく〜雨上り
依はく〜く〜く〜早九月餅
吹れく〜く〜の嵐なれ〜く〜花は時
雪〜く〜く〜または菊擔梅
糸は流るるく〜は葉けり存く〜夜
茶は流るるく〜く〜是は所流るる

菴 尹 峨 波 尹 菴 波

藤室のりもむりもく...向ひ合
河、あゝ〜市月出ま
あはれしる稲荷の頼ふあゝれ
伏見月章歌ふや鄙ひらり
おれ山の仙をぬ影し生れつる
尾羽と〜い〜天鵲織の襟
三寸ふ火と〜し、唐紙糸〜いさ
荷纏衣捌く明六の月
卷 伊 峨 波 尹 菴 波 峨

新とひ〜子安修治尔田村川
蜀江綿とゆけい〜い〜
水晶の理ね〜綾片とぬらり
詩仙分伝りおり浪に皺
沖ひ〜〜風流の〜〜揖枕
高貴の〜〜人きこ〜
夢をせ〜仙母法〜い〜あ有鏡〜
雲の〜三層〜水り〜
卷 伊 峨 波 尹 菴 波 峨

一形しあねのほり糸沙りの
 くろ顔中あまいかうりか
 漢摩檀とくあけしあね
 角んくまらねふと栗石
 あね色の太ゆるりよ集れ玉
 心さうとけし春月陶

兎何

舟圖の朝日のしらね
 老るる凍系ほりまの尾
 積りくる千も箱のひや
 ありねけまの道ねの夢
 言ふ命のほりあけしあね
 あねれ氣のあけしあね

言歌の由もふ月を相うん
をこころい物持
膝も小女もよき所をいへ
清き寺や 磯も十以
白雨く朝の山もつりも利
倉くく 舟田とそ何
提灯とおひかりと日の時
紙くましく 寐のほ賊
岬 菴 波 磯 波 岬 岬

梓うさけう 玄蕃う 壺所
く 人形と 心も河の風
物もふ 袋の上もあまの月
のうらあせと 葎持の陣
傾城れがふと 女家の集
ふりく 山と 畑とけり
あかハ 纏乃 歴つた花さうり
親れ 歌と 物の一と
岬 菴 波 岬 波 岬 岬

観舟うづらに秋のけつと取
 るる舟らやうしをく入お
 りあしつ小終麻のふもあひふ縁し
 の浦をら位の所持崩るし
 之程しとあし望河りまらあ
 山多田今各の早あさるさう
 欠けけし目とこのあふふとれ
 月蓮上人流るの薬

峨 波 菴 波 菴 波 菴 尹

へしうら春の抱し
 茶釜のりは秋のあふふとれ
 宮堂ふしと秋のあふふとれ
 けりあしつ小終麻のふもあひふ縁し
 ろつるのいしつとぬける月の片
 月おあしつ小終麻のふもあひふ縁し
 各あしつ小終麻のふもあひふ縁し
 隠居の杖の今しつとぬける月の片

尹 波 峨 菴 波 菴 波 菴 尹

喜望の二重のりかき物を入
むしよきまきく自ひこゆき
接打うよひとくし親とすく
級と力し芝青接む
新風や今く自水くくしゆ
雪中くなく鳥息とせり声
すねね月を交へ出きく大江山
舟小いく舟く道とくくく
岷 菴 波 岷 波 岷

ふゆりあゆみの音淋し
古い塵斗月ふきくゆかり
こころくこころきく誰の児
糸くおし糸く糸く志賀
甲子くも色くも人月歌
腰へくくく糸金の指針
来月の卵く方信ともりけん
殺くくくく子のさる
岷 菴 波 岷 波 岷

三藤しよりく都と守りや
奴の年と若殿の口
おゆふふ家、渭北春天樹
まゆ大板と見ざる洞呂吹
鏡音と塔玉の件の流々青丸
花の上ゆとほんおるらん
こころや朝月ほくそ朝々あ
まふ入りのこころ海より

峨 菴 波 磯 菴 波 尹

秋歩みよる如くよも藤むや山
はのくくく丸くさる松市
黒髪くくぬくくくく
水とあひまきくく遊る紅水
蘇童り光海より川冬く
中水溜は紫菀りゆゆ
船左とる海の中水波ゆり
かひりたる舟か舟浦しなる

峨 菴 波 磯 菴 波 尹

水はく柏、下りく水鉢 峨
さし藤、さしきぬ白子松坂菴
葉のさし乃首のさし世をさ
割く、ささ小は徒十人 波
鑄物師の名と河りくと橋は月 菴
中井小さし何む轆の糸子 峨
村の杖さき女りさし下 波
源ささささささささささ 珥

傍軍のけのも拭き白くん 峨
さしゆしれ照しゆぬ豆菴
糸字と障子さし何世の糸さ 珥
松乃藤とささ吟多 波
赤紅の緒ささささし花車 菴
さしゆささささささささ 峨

何女

百菴

苔の夢ら白ぬき空一雪

盛の大板やる海もちり

小舟中ふ起し物寄るふ下り船

と浪く風り星の輝

吾と果れぬふあふり舟第のち

生年よしぬる掛く人の橋

超波

青鹽

青岷

波

菴

七竇の神く河柳はなれお

眉ききけか龜のくくもひ

坊漬の味くくく漬たう作居

河向の煙の流くくくく

備首と頭隠れ袋のけくく

今くくくくくくくく

君く代わさぬくくくく

今りの扇風の出入口

岷

珣

菴

波

珣

岷

波

菴

就宮(ら)く〜丸(ら)の(る)ら
中(ま)ま(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
一(い)つ(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
先(ま)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
丸(ま)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
蓋(か)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
二(に)日(に)の(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
前(ま)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜

菴 波 峨 伊 波 菴 伊 波 菴 伊 峨

開(あ)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
等(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
此(こ)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
確(た)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
料(り)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
飯(い)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
松(ま)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜
石(い)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜(ら)〜

菴 波 峨 伊 波 菴 伊 波 菴 伊 峨

厚板と湯谷と上巻と白ひり
威神陸の急目乃下
雨きの川とてとて舟中風
初学の窓へ堂前とて
森小海と月乃出と浪の上を
嵐とてはとて指れおひとよ
招白接くととと腕もたひとよ
長い巻白乃と茶所堂とよ
菴 波 岬 尹 波 菴

物光る雲のうとて玉穂とよ
とれとてとてとれとてとて
百巻乃茶の湯と腹れとて
黒羽とてとてとてとて常盤の
川竹乃とてとてとてとて
唄とてとてとてとてとて
石巻とてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとて
菴 波 岬 尹 波 菴

雲の澄少橋と川舟の月
一咸陽宮のうきさのこ同
花さるやとわすて風り影がけ
息乃も去らば順の岸入
よのつらみまに中流に舟を
弟がとくく居る川舟の雨
中書婦こも格子とほひひと
らんも瘡乃毒くさるる妻
菴 波 岬 尹 波 菴

解法に乃梓のま上り勢の
大見櫓の雪乃結
芝浦北楢くくくし
さく如利くくくし
比島屋も控くくくし
鳴りけけくくくし
塔小くくくし
無為恬恒ふまのまの月
菴 波 岬 尹 波 菴

吹のふ葉の若のくくか兼
 川にふるける新米の色
 深川やあつあつと舟月先
 かきこむまははとんとおや
 夕涼の空うはけや龍あん
 天王の筆りこくくく阿のい
 いのいふまきよあひかしく大徳の利
 志牛あつて感風凜々
 菴 波 岬 伊 菴 波 岬 伊 菴

元日月のくくくくくくくく
 花の林れ佳徳の宿
 生垣り五如と神のまきこむ
 金魚の魚の水替へて見ん
 然りと河國利の菓子とあつと
 響くくくくくくくくく
 かくくくくくくくくく
 萩の花ちほ承乃鼻けく
 菴 波 岬 伊 菴 波 岬 伊 菴

71
泊思や木の匂の枝に露はくろ
客殿の戸のくろくろくろく
まよとる夜はくろくろくろく
才と兄の万のつりくろく
年のくれあゆみはくろく
三井の店もまろくろく
くらまのくろく合まて
海はくろくくろくくろく
波 岨 岨 波 岨 岨 波 岨

及の月薊れ中の真の花
垣の垣くろくくろく
卸くろく二座ふくろく
松葉くろくくろく
新くろくくろく
瀬くろくくろく
英皇の實のくろく
小僧のくろく
波 岨 岨 波 岨 岨 波 岨 岨

何人の後乃けふり〜まゝり
 款つた山の岸乃程を
 ち〜や〜い色の雲〜し〜け
 鶴乃額のいけ〜元
 軸〜の〜掛もは花乃神
 陰〜し〜流〜け〜
 梅櫻松
 波 岷 埤 菴 岷 埤

何人〜
 款つた〜
 ち〜や〜い〜
 鶴乃〜
 軸〜の〜
 陰〜し〜
 梅櫻松
 波 岷 埤 菴 岷 埤
 牛渡馬勃あふを〜
 侍ふやあ〜
 心〜し〜
 取〜の〜

く連く入部く一く(一)
はくくく蔵のくくく
又蔵くくくくくく関達
をくくくくの積を積
くくくくくく西風
の皮もくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく

あくくくくくくく
くくくく百談く敢く
くくくくくくくく
牝沖くくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
凡止母のくくくくく

Handwritten cursive text, likely a signature or inscription, running vertically down the right side of the page.

Handwritten vertical text, possibly a name or title, located in the middle-right section of the page.



東都藤堂

享保十九年寅四月

岩菜屋小兵衛板

